

服飾造形 I

担当鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要
服作りの技術と考え方を製作実習を通して学びます。まずは平面構成からはじめ、服はどのようなパーツを組み合わせて作るのかを理解する必修科目である。

☆授業のねらい
基本アイテムの平面製図・製作をとおり服作りの基本を学ぶようにする。今後の礎となる。

☆目標
製図方法、ミシンの使い方、素材にあわせた縫製技術を理解し、オリジナルの作品ができるようになることを目指す。

☆授業計画 10単位(総授業時数 280 講義時数 40 実習時数 240)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1週	ミシンの使い方、縫い方の練習	復習:反復練習
2週	採寸・原型の製図	復習:残った作業を進める
3週	《レディースシャツ》原型使用パターンメイキング(製図)	復習:残った作業を進める
4週	パターンに縫製仕様指示書き	復習:残った作業を進める
5週	各パーツの工業用パターン作成、マーキング	復習:残った作業を進める
6週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
7週	部分縫い縫製(練習)	復習:縫製の確認
8週	縫製	復習:残った作業を進める
9週	仕上げ	復習:セルフチェック
10週	《メンズシャツ》囲み製図パターンメイキング	復習:残った作業を進める
11週	パターンに縫製仕様指示書き	復習:残った作業を進める
12週	各パーツの工業用パターン作成、マーキング	復習:残った作業を進める
13週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
14週	縫製	復習:縫製の確認
15週	仕上げ	復習:セルフチェック
16週	《オリジナル作品》各アイテムパターンメイキング・パターン展開	復習:残った作業を進める
17週	トワル作成	復習:残った作業を進める
18週	トワルフィッティング・修正	復習:残った作業を進める
19週	各アイテムパターン修正・作成	復習:残った作業を進める
20週	パターンに縫製仕様指示書き、付属確認	復習:残った作業を進める
21週	各パーツの工業用パターン作成	復習:残った作業を進める
22週	マーキング	復習:残った作業を進める
23週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
24週	縫製	復習:残った作業を進める
25週	装飾等	復習:残った作業を進める
26週	仕上げ	復習:セルフチェック
27週	《技能検定用タイトスカート》生地裁断、芯貼り、アイロン	
28週	縫製	
29週	《5PKTパンツ》支給パターン・縫い代付け	復習:残った作業を進める
30週	マーキング	復習:残った作業を進める
31週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
32週	縫製	復習:残った作業を進める
33週	仕上げ	復習:セルフチェック
34週	《ポケット部分縫い》スラッシュポケット・箱ポケット	復習:縫製の確認
35週	片玉縁ポケット・両玉縁ポケット	

☆フィードバックの方法
作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後に返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	40 %
試験結果	25 %
検定試験	5 %
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献
服飾造形講座①服飾造形の基礎、②スカート・パンツ、③ブラウス・ワンピース

☆オフィスアワー
火・水曜日09時00分～12時10分:20D教室
鈴木英子担当

☆備考
日程及び授業内容は変更することもある。

デザイン画 I

担当鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要
人体や基本的な表現方法を、クロッキーなどで理解し、人体のプロポーション・顔・手・足などの描き方、又色彩による素材・柄・質感立体的な表現方法など基本的なデザイン画の描き方を学ぶ。必修科目である。

☆授業のねらい
服飾デザイン画の基礎知識である色彩・形態・構成などを講義と演習で学び、美的選択眼と構成力を習得する。

☆目標
人体と衣服の関連を把握し、デザインの構造線を正確に描くことができるようにする。

☆授業計画 5単位(総授業時数 140 講義時数 40 実習時数 100)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	基本となるプロポーション (8頭身の描き方)	デッサン10分 復習:反復練習
2回	顔のプロポーション・手の描き方	デッサン10分 復習:反復練習
3回	水着のデザイン	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
4回	ポーズのバリエーション①	デッサン10分 復習:反復練習
5回	ポーズのバリエーション②	デッサン10分 復習:反復練習
6回	ポーズのバリエーション③	デッサン10分 復習:反復練習
7回	材質表現(ウール・チェック柄)	デッサン10分 予習:素材リサーチ
8回	材質表現(透ける素材)	デッサン10分 予習:素材リサーチ
9回	材質表現(毛皮)	デッサン10分 予習:素材リサーチ
10回	衿のデザインバリエーション	デッサン10分 復習:反復練習
11回	袖のデザインバリエーション	デッサン10分 復習:反復練習
12回	テーマデザイン テーマ「動植物」	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
13回	テーマデザイン テーマ「自然現象」	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
14回	アイテム図の描き方	デッサン10分 復習:反復練習
15回	SMSDデザインショー デザイン画	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
16回	デザイン発想 テーマ「ワッペン」企画立案・アイディア展開	デッサン10分 予習:資料収集
17回	コンセプト決定・デザイン案展開	デッサン10分 復習:残った作業を進める
18回	素材・構造検討	デッサン10分 復習:残った作業を進める
19回	デザイン決定・レンダリング	デッサン10分 復習:残った作業を進める
20回	ボード作成・プレゼン	デッサン10分 復習:作品の見直し
21回		各自の進行状況に合わせる
22回	特別授業(展示会&ショーのため)	復習:残った作業を進める
23回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回		復習:残った作業を進める
26回	《パネル作品》 パネル水貼り・デザイン考案	デッサン10分 予習:資料収集
27回	アイディア展開	デッサン10分 復習:残った作業を進める
28回	コンセプト決定・デザイン案展開	デッサン10分 復習:残った作業を進める
29回	デザイン決定・レンダリング	デッサン10分 復習:残った作業を進める
30回	パネルに下描き	デッサン10分 復習:残った作業を進める
31回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
32回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
33回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
34回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
35回	まとめ・合評開	復習:作品の振り返り

☆フィードバックの方法
各作品添削の際に、コメントやアドバイスを記入して、次回以降の授業で返却する。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	70 %
試験結果	—
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献
服飾関連専門講座④ ファッションデザイン画
GAP、各種ファッション雑誌

☆オフィスアワー
月曜日13時10分～16時20分:20D教室
鈴木英子担当

☆備考
日程及び授業内容は変更することもある。

西洋服装史

担当 鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要

古代から近代に至る西洋服飾文化を、時代背景・社会情勢を考えながら、どのようにモードが変化してきたかを学ぶ。
必修科目である。

☆授業のねらい

各時代の民族・地域・風土・宗教・流行などの特色を理解する。その知識と理解に基づいて、現代～未来につながるデザインを創造する。

☆目標

デザインを志すものにとって洋服の歴史や基礎知識を知ること、更に広い視野をもてるようにする。

☆授業計画

2単位(総授業時数 70 講義時数 70 実習時数 0)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	服装変遷の要因	予習:教科書を確認
2回	《古代の服装》 エジプト様式	予習:教科書を確認
3回	ギリシャ様式	予習:教科書を確認
4回	ローマ様式	復習:授業内容を整理しまとめる
5回	《中世の服装》 ビザンチン様式	予習:教科書を確認
6回	ロマネスク様式	予習:教科書を確認
7回	ゴシック様式	復習:授業内容を整理しまとめる
8回	《近世の服装》 ルネサンス様式 16世紀	予習:教科書を確認
9回	バロック様式 17世紀	予習:教科書を確認
10回	ロココ様式 18世紀	復習:授業内容を整理しまとめる
11回	《近代の服装》 クラシックスタイル ロマン主義スタイル	予習:教科書を確認
12回	クリノリンスタイル パッサルススタイル	予習:教科書を確認
13回	ブルーマー Sカーブシルエット	予習:教科書を確認
14回	ホップル	復習:授業内容を整理しまとめる
15回	《現代の服装》 着装とデザイン(ディオールを事例として)	予習:教科書を確認
16回		予習:教科書を確認
17回	1920年代 デザイナー論(シャネル)女性の自立	予習:教科書を確認
18回		予習:教科書を確認
19回	1930年代～1940年代 ファッションの変遷	予習:教科書を確認
20回		復習:授業内容を整理しまとめる
21回		各自の進行状況に合わせる
22回	特別授業(展示会&ショウのため)	復習:残った作業を進める
23回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回		復習:残った作業を進める
26回	《現代の服装》1950年代 ニュールック/オードリー・ヘップバーン	予習:教科書を確認
27回		予習:教科書を確認
28回	1960年代 ミニスカート/タイピールック/モッズルック	予習:教科書を確認
29回		予習:教科書を確認
30回	1970年代 フォークロアルック/ジーンズファッション	予習:教科書を確認
31回		予習:教科書を確認
32回	1980年代 ジャンポール・ゴルチェ	予習:教科書を確認
33回	ヴィヴィアン・ウエストウッド	予習:教科書を確認
34回	1990年代 ストリートファッション	予習:教科書を確認
35回		復習:授業内容を整理しまとめる

☆フィードバックの方法

授業内で不明点があれば、その場で対応する。定期的に授業内容をまとめたノートを個別に点検、指導を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30	%
課題	35	%
試験結果	35	%
検定試験	—	
企業研修	—	

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

ファッションの歴史

☆オフィスアワー

金曜日14時50分～16時20分:20D教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

色彩学

担当鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要

色が溢れている現代世の中で、身近な表現手段の1つである色彩に親しみ、色として見える仕組み・カラーコミュニケーションの主な方法・色彩の実用価値と効果を知り色彩を有効に活用するための基本的な知識を身につける必修科目である。

☆授業のねらい

色の持つ物理的側面・心理的側面・デザインの側面を、講義形式による理論の説明と共に、カラーカードを用いた演習を行い色彩の基礎を習得する。

☆目標

「色彩検定3級」の取得を目標とする。

☆授業計画

1単位(総授業時数 35 講義時数 20 実習時数 15)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	色が見える仕組み① 光について	予習:教科書を確認
2回		予習:教科書を確認
3回	色が見える仕組み② 物体について	予習:教科書を確認
4回		予習:教科書を確認
5回	色が見える仕組み③ 視覚について	予習:教科書を確認
6回		予習:教科書を確認
7回	混色の原理 加法混色・減法混色	予習:教科書を確認
8回	混色の原理 中間混色について	予習:教科書を確認
9回	色の表示方法① 慣用色名、系統色名で伝える	予習:教科書を確認
10回		予習:教科書を確認
11回	色の表示方法② 色の三属性で伝える	予習:教科書を確認
12回		予習:教科書を確認
13回	色の表示方法③ PCCSを理解する	予習:教科書を確認
14回		予習:教科書を確認
15回	色の知覚的効果① 色対比、面積効果など	予習:教科書を確認
16回		予習:教科書を確認
17回	色の知覚的効果②	予習:教科書を確認
18回		予習:教科書を確認
19回		各自の進行状況に合わせる
20回	特別授業(展示会&ショウのため)	復習:残った作業を進める
21回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
22回		復習:残った作業を進める
23回		復習:残った作業を進める
24回	色の心理的効果	予習:教科書を確認
25回		予習:教科書を確認
26回	色彩調和① 色相から配色を考える	復習:残った作業を進める
27回		復習:残った作業を進める
28回	色彩調和②	復習:残った作業を進める
29回		復習:残った作業を進める
30回	色彩調和③	復習:残った作業を進める
31回		復習:残った作業を進める
32回	色彩調和④ トーンから配色を考える	復習:残った作業を進める
33回		復習:残った作業を進める
34回	色彩調和⑤ 配色の基本的な技法	復習:残った作業を進める
35回		復習:残った作業を進める

☆フィードバックの方法

授業の中で質問に答えて、その都度解決していく。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30	%
課題	40	%
試験結果	25	%
検定試験	5	%
企業研修	—	

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

色彩検定公式テキスト

☆オフィスアワー

木曜日09時00分～10時30分:20D教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

素材学

担当鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要
繊維、糸、織物、編み物等アパレル素材の基本的な知識を学び、服地の特性や、効果、用途を知る為の必修科目である。

☆授業のねらい
衣服材料の基礎的知識の習得により、衣服の設計・製作において、目的に応じた適切な素材の選択ができる。

☆目標
基本素材の特性・用途を理解し、素材ごとの欠点、注意点、加工の仕方によるメリット・デメリットを習得しアパレル素材の知識を深める。

☆授業計画

2単位(総授業時数 70 講義時数 40 実習時数 30)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	素材(テキスタイル)とは	復習:授業内容を整理しまとめる
2回	織物の種類	復習:授業内容を整理しまとめる
3回	組織の分類	復習:授業内容を整理しまとめる
4回	三原組織 平織り	復習:授業内容を整理しまとめる
5回	三原組織 綾織り	復習:授業内容を整理しまとめる
6回	三原組織 朱子織り	復習:授業内容を整理しまとめる
7回	変化組織	復習:授業内容を整理しまとめる
8回		復習:授業内容を整理しまとめる
9回	特別組織	復習:授業内容を整理しまとめる
10回		復習:授業内容を整理しまとめる
11回	混合組織	復習:授業内容を整理しまとめる
12回		復習:授業内容を整理しまとめる
13回	重ね組織	復習:授業内容を整理しまとめる
14回		復習:授業内容を整理しまとめる
15回	綿糸について	復習:授業内容を整理しまとめる
16回		復習:授業内容を整理しまとめる
17回	獣毛について	復習:授業内容を整理しまとめる
18回		復習:授業内容を整理しまとめる
19回	絹織物について	復習:授業内容を整理しまとめる
20回		復習:授業内容を整理しまとめる
21回		各自の進行状況に合わせる
22回	特別授業(展示会&ショウのため)	復習:残った作業を進める
23回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回		復習:残った作業を進める
26回	生地見本帳作り No. 1~7	復習:残った作業を進める
27回	生地見本帳作り No. 8~14	復習:残った作業を進める
28回	生地見本帳作り No. 15~21	復習:残った作業を進める
29回	生地見本帳作り No. 22~28	復習:残った作業を進める
30回	生地見本帳作り No. 29~36	復習:残った作業を進める
31回	生地見本帳作り No. 37~43	復習:残った作業を進める
32回	生地見本帳作り No. 44~50	復習:残った作業を進める
33回	繊維の燃焼実験・繊維の分類	復習:実験内容をまとめる
34回	顕微鏡による織物の細部観察	復習:実験内容をまとめる
35回	まとめ	

☆フィードバックの方法
授業内で不明点があれば、その場で対応する。提出課題には添削・採点后返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	40 %
試験結果	25 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献
服飾関連専門講座①アパレル素材論

☆オフィスアワー
金曜日13時10分~14時40分:20D教室
鈴木英子担当

☆備考
日程及び授業内容は変更することもある。

コーディネート演習

担当佐藤道子 アパレル工学科1年

☆概要

なかなか短期間のshop研修はできないが、グループ企業のshop「harmy hudson」では、他の授業に影響がない時間帯でインターシップ（shop研修）を経験する。お客様との接し方、コーディネート提案力、商品知識を身につけるために必要な必須科目である。

☆授業のねらい

現場体験を通して、実践的なスキルを学ぶ。

☆目標

専門的スキルとコミュニケーション能力を身に付けることを目指す。

☆授業計画

2単位(総授業時数 140 講義時数 20 実習時数 120)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《接客について》	あいさつの基本
2回		立ち振る舞い
3回		心構え
4回		表情(顔・目・口元・笑顔)
5回		会話
6回		ご案内
7回		接客用語
8回	《商品の把握》	商品の種類と名称をおぼえる
9回		商品の種類と名称をおぼえる
10回	《セールスコーディネート》	SHOPの商品をコーディネート
11回		SHOPの商品をコーディネート
12回		SHOPの商品をコーディネート
13回		SHOPの商品をコーディネート
14回		SHOPの商品をコーディネート
15回	《ポップ作成》	イベント用
16回		セール用
17回		etc...
18回	特別授業(展示会・ショーのため) オリジナル作品製作	各自の進行状況に合わせる
19回		復習:残った作業を進める
20回		復習:残った作業を進める
21回		復習:残った作業を進める
22回		復習:残った作業を進める
23回	《SNSプロモーション》	SNS発信方法
24回		SNS発信方法
25回		写真の撮り方
26回		写真の撮り方
27回		SNS発信
28回		SNS発信
29回	《在庫管理》	数え方・数の把握
30回		数え方・数の把握
31回		新商品の受け入れ
32回		値札付け
33回	《ラッピング》	ラッピングテクニック
34回		リボンのかけ方・結び方
35回		応用ラッピング

☆フィードバックの方法

授業の中で質問に答えて、その都度解決していく。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	—
試験結果	—
検定試験	—
企業研修	70 %

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

なし

☆オフィスアワー

水曜日 13時10分～16時20分 : harmy hudson Shop
佐藤道子担当授業時数70時間

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

手芸

担当佐藤道子 アパレル工学科1年

☆概要

ファッションコーディネートに欠かすことの出来ないものには装飾手段(刺繍・プリントETC)・ファッション小物(帽子・手袋・靴ETC)アクセサリー(ネックレス・リング・ブローチETC)などたくさんあります。その中からいくつかを選び 実際に作成することで各アイテムのデザイン力・素材の選び方・用途に応じる工夫・目的に沿ったもの作りと様々な想いに対応できる能力をを身につけるために必要とする必修科目である。

☆授業のねらい

コーディネートテクニックの一つとして自分で作ることの出来るアクセサリー等の基本的な知識と作り方・テクニックを学ぶ。

☆目標

広い視野で様々な情報をキャッチしながらファッションをトータルに表現出来る技術を身につける。

☆授業計画

5単位(総授業時数 140 講義時数 40 実習時数 100)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《こぎん刺し・ぼうし》	予習:生地・付属の準備
2回		復習:残った作業を進める
3回		復習:残った作業を進める
4回		予習:デザインリサーチ
5回		復習:残った作業を進める
6回		予習:生地・付属の準備
7回		復習:残った作業を進める
8回		復習:残った作業を進める
9回		復習:残った作業を進める
10回		復習:残った作業を進める
11回		復習:セルフチェック
12回	《デザイン刺繍シャツ》	予習:デザインリサーチ
13回		復習:残った作業を進める
14回		復習:残った作業を進める
15回		復習:残った作業を進める
16回		復習:残った作業を進める
17回		復習:残った作業を進める
18回		復習:残った作業を進める
19回		復習:セルフチェック
20回		各自の進行状況に合わせる
21回	特別授業(展示会・ショーのため)	復習:残った作業を進める
22回	オリジナル作品製作	復習:残った作業を進める
23回		復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回		復習:残った作業を進める
26回	《カジュアルネクタイ》	予習:パターン用紙等の準備
27回		予習:生地・付属の準備
28回		復習:残った作業を進める
29回		復習:残った作業を進める
30回		復習:セルフチェック
31回	《シルバーアクセサリー》	予習:デザインリサーチ
32回		予習:材料を準備する
33回		復習:残った作業を進める
34回		復習:残った作業を進める
35回		復習:セルフチェック

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	70 %
試験結果	—
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

コーディネートテクニックアクセサリー編

☆オフィスアワー

火曜日 13時10分～16時20分:20D教室

佐藤道子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

服飾概論 I

担当鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要

服を作成するために必要なパターンを平面製図を引きながら、身頃、袖、衿等の形を覚えていく。またパターンを作る上で重要な考え方・用語・人体についての知識も同時に学ぶ基礎的な科目である。よって必修科目である。

☆授業のねらい

衣服について学ぶ。人体について学ぶ。人体の計測について学ぶ。パターンについて学ぶ。服を作るために最低限必要なことをまなぶ。今後、全ての科目の基礎になるような授業にする。基礎に徹する。

☆目標

次年度受験する「パターンメイキング技術検定試験3級」の取得を目標とする。

☆授業計画

2単位(総授業時数 70

講義時数 40

実習時数 30)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《服飾造形概論》 衣服と服飾造形	予習:教科書を確認
2回	衣服の分類	予習:教科書を確認
3回	衣服製作のプロセス	復習:授業内容の整理・まとめ
4回	《衣服製作のための用具》 採寸用具、作図用具等	予習:シーチングの地直し
5回	《衣服製作のための人体について》 人体の方位と体表区分	予習:教科書を確認
6回	衣服製作のための人体の構造	予習:教科書を確認
7回	人体のプロポーション	予習:教科書を確認
8回	人体の運動と衣服パターンの関係	復習:授業内容の整理・まとめ
9回	《衣服製作のための人体計測》 計測姿勢・計測の着衣	予習:教科書を確認
10回	計測方法・参考寸法	復習:授業内容の整理・まとめ
11回	《パターン製作の基礎》 平面作図と立体裁断について	予習:教科書を確認
12回	原型について・作図方法	復習:作図反復練習
13回	体型と原型	予習:教科書を確認
14回	パターンの操作法(ダーツ移動など)	復習:操作法反復練習
15回	《衣服素材と付属材料》 衣服素材とデザイン・付属材料	予習:教科書を確認
16回	《裁断・縫製の基礎》 使用量の見積もり方・縮絨・地直し・布地の表裏の見分け方	予習:教科書を確認
17回	裁断・印付け・布地に合わせた糸・針の選び方	予習:教科書を確認
18回	基礎縫い(手縫い)	復習:残った作業を進める
19回	基礎縫い(ミシン縫い)	復習:残った作業を進める
20回	特別授業(展示会&ショウのため) オリジナル作品製作	各自の進行状況に合わせる
21回		パターンは全て工業用パターンで作成する
22回		復習:残った作業を進める
23回		復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回	《既製服の概念》 既製服の基礎知識・既製服と注文服	予習:教科書を確認
26回	パターンメイキング用語	予習:教科書を確認
27回	既製服のパターンについて	予習:教科書を確認
28回	《ファーストパターンメイキング》フラットパターンメイキングの基礎知識	予習:教科書を確認
29回	フラットパターンメイキング 実技1(身頃)	復習:残った作業を進める
30回	フラットパターンメイキング 実技2(衿)	復習:残った作業を進める
31回	フラットパターンメイキング 実技3(袖)	復習:残った作業を進める
32回	フラットパターンメイキング 実技4(スカート)	復習:残った作業を進める
33回	フラットパターンメイキング 実技5(ブラウス・シャツ)	復習:残った作業を進める
34回	ドレーピングの基礎知識	予習:教科書を確認
35回	ドレーピングの実技について	予習:教科書を確認

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後に返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	50 %
試験結果	20 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

服飾造形講座①服飾造形の基礎、②スカート・パンツ、③ブラウス・ワンピース
パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック

☆オフィスアワー

月曜日09時00分～10時30分:200教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

服飾概論Ⅱ

担当鈴木英子 アパレル工学科1年

☆概要

衣服の基本形である「原型」・「タイトスカート」・「ブラウス」を工業用ボディを使用して、立体裁断を行いパターンを作る。立体裁断(ドレーピング)では布地(シーチング)の扱い方やピンの打ち方等の基本テクニックから布の動きや生活する為に必要なユルミの入ったシルエット構成なども実習する。原型を利用したパターンの動かし方(ユルミの入れ方)やサイズ展開の方法も実習する。基本を学ぶ為の必修科目である。

☆授業のねらい

基礎がなければ応用はない。今後のパターン作成のために、立体裁断でおこしたものをしっかりしたパターンにできるようにドレーピング・パターンメイキングの基礎をしっかりと学ぶ。

☆目標

ベーシックアイテムの立体裁断を通じ洋服の基本的なシルエットやバランスを理解して平面である布を立体的な形(洋服)にできるようにすることを目指す。基礎知識・基礎技術は完全に習得する。

☆授業計画

2単位(総授業時数 70

講義時数 20

実習時数 50)

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《立体裁断について》立体裁断とは、衣服と造形美、衣服と人体	復習:授業内容の整理・まとめ
2回	用具、材料、ボディの準備、ピンの打ち方	予習:プリントを確認
3回	シーチングの地直し、縦糸と横糸を抜く	復習:残った作業を進める
4回	《7AR原型立体裁断》7AR原型ドレーピング(前後身頃おこし)	予習:シーチングの地直し
5回	印付け、ラインチェック、ドラフティング	復習:残った作業を進める
6回	パターンメイキング	復習:授業内容の整理・まとめ
7回	7ARスカート原型ドレーピング(前後スカートおこし)	予習:シーチングの地直し
8回	印付け、ラインチェック、ドラフティング	復習:残った作業を進める
9回	パターンメイキング	復習:授業内容の整理・まとめ
10回	7ARボディのユルミについて	復習:授業内容の整理・まとめ
11回	身頃原型にユルミを入れる(原型パターン展開)	復習:残った作業を進める
12回	スカート原型にユルミを入れる(原型パターン展開)	復習:残った作業を進める
13回	《工業用パターンメイキング》工業用パターンとは、記号について	予習:プリントを確認
14回	工業用パターン基礎知識、縫い代のつけ方	復習:授業内容の整理・まとめ
15回	工業用パターン実技	復習:残った作業を進める
16回	《グレーディング》グレーディング(サイズ展開)方法(タイトスカート)	復習:残った作業を進める
17回	グレーディング方法(シャツ)	復習:残った作業を進める
18回		各自の進行状況に合わせる
19回		パターンは全て工業用パターンで
20回	特別授業(展示会&ショウのため)	作成する
21回	オリジナル作品製作	
22回		
23回	《スカート立体裁断》スカートの構造原理・機能性	復習:授業内容の整理・まとめ
24回	タイトスカートドレーピング(前後スカートおこし)	予習:シーチングの地直し
25回	タイトスカートドレーピング(印付け、ラインチェック、裾、ベルト)	復習:残った作業を進める
26回	タイトスカートドラフティング、パターンメイキング	復習:残った作業を進める
27回	タイトスカート工業用パターン作成	復習:残った作業を進める
28回	タイトスカート縫製仕様書作成	復習:授業内容の整理・まとめ
29回	《シャツ立体裁断》シャツの構造原理・形態による名称	復習:授業内容の整理・まとめ
30回	シャツドレーピング(前後身頃おこし)	予習:シーチングの地直し
31回	シャツドレーピング(台衿、上衿)	復習:残った作業を進める
32回	シャツドレーピング(袖、カフス、印付け、ラインチェック)	復習:残った作業を進める
33回	シャツドラフティング、パターンメイキング	復習:残った作業を進める
34回	シャツ工業用パターン作成	復習:残った作業を進める
35回	シャツ縫製仕様書作成	復習:授業内容の整理・まとめ

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後に返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	50 %
試験結果	20 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

原型についてのプリント、スカートについてのプリント、シャツについてのプリント
パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック

☆オフィスアワー

金曜日10時40分～12時10分:20D教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

服飾造形Ⅱ

担当鈴木英子 アパレル工学科2年

★概要
服作りの応用段階に入り各アイテムの素材、デザイン、用途に適した縫製テクニックを学ぶ重要な科目である。
よって必修科目である。

★授業のねらい
商品としての服作りに重点をおき、既製服を生産するための技術と、生産の合理性や品質の確保について実習を通して理解する。

★目標
裁断・縫製・検品までのアパレル工業生産に必要な流れを学び理解し、工業生産のできるパターン作成、縫製方法、工程分析できるようになることを目指す。

★授業計画

総授業時数 280 講義時数 40 実習時数 240

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1週	《テーラードジャケット》支給パターン 工業用パターン展開(表地、裏地、芯地)	予習:縫製仕様書作成、マーキング
2週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
3週	縫製(表地接ぎ、ポケット作り)	復習:ポケット反復練習
4週	縫製(裏地接ぎ、テーラードカラー、袖)	復習:縫製確認
5週	縫製(袖付け、肩パット、ゆき締付け)	復習:縫製確認
6週	縫製(衿、前端、ドンデン、まつり)	復習:縫製確認
7週	縫製(釦ホール(手縫い)、釦付け)	復習:釦ホール反復練習
8週	仕上げ	復習:授業内容の整理・まとめ
9週	《フード付きブルゾン》支給パターン 工業用パターン展開(表地、芯地)	予習:縫製仕様書作成、マーキング
10週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
11週	縫製(表地接ぎ、衿・フード作り)	復習:縫製の確認
12週	縫製(前身頃ポケット作り)	復習:ポケット反復練習
13週	縫製(前中心ムシ見せファスナー付け)	復習:ファスナー付け反復練習
14週	縫製(袖付け、裾始末)	復習:縫製の確認
15週	仕上げ	復習:授業内容の整理・まとめ
16週	《オリジナル作品》デザイン考案・素材選択・パターンメイキング・パターン展開	予習:デザイン考案
17週	トワル作成	復習:トワル組み立て
18週	トワルフィッティング・修正	復習:残った作業を進める
19週	各アイテムパターン修正・作成	復習:残った作業を進める
20週	各パーツの工業用パターン作成、マーキング	復習:縫製仕様書作成
21週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
22週	縫製	復習:残った作業を進める
23週	縫製	復習:残った作業を進める
24週	装飾等	復習:残った作業を進める
25週	仕上げ	復習:セルフチェック
26週	《教育実習指導対策》タイトスカート縫製手順ノート作り	予習:縫製手順確認
27週	部分縫い縫製(後中心ファスナー付け、ベンツ位置(表地&裏地))	復習:デモンストレーション準備
28週	部分縫い縫製(マエカン、糸ループ、まつり)	復習:デモンストレーション準備
29週	1年生実習指導	復習:報告書作成
30週	《技能検定用シャツ》生地裁断、芯貼り、アイロン	
31週	縫製	
32週	《クリエイティブ実習》デザイン考案・素材選択・パターンメイキング	予習:デザイン考案
33週	トワル作成・フィッティング・修正	復習:トワル組み立て
34週	生地裁断～縫製	復習:残った作業を進める
35週	仕上げ	復習:セルフチェック

★フィードバックの方法
作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点后に返却し解説を行う。

★成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	40 %
試験結果	25 %
検定試験	5 %
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

★教科書及び参考文献
服飾造形講座②スカート・パンツ、③ブラウス・ワンピース、④ジャケット・コート、⑤コート・ケープ

★オフィスアワー
火・水曜日09時00分～12時10分:200教室
鈴木英子担当

★備考
日程及び授業内容は変更することもある。

デザイン画Ⅱ

担当鈴木英子 アパレル工学科2年

☆概要
デザイン画を描くデザイナー（自分）の、服に対する気持ち・想い・個性が伝わるようなデザイン画を表現できるようにさらに描写力を上達させる。必修科目である。

☆授業のねらい
想いをあらわすために、布の動き方、量感、表情を描けるようにする。また服を細部にまで描くことのできる線の描き方も学ぶ。

☆目標
個性あふれる線の描き方、自分らしいデザイン画が描けるようになることを目指す。

☆授業計画

総授業時数 140 講義時数 40 実習時数 100

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《コンテストデザイン画》 デザイン考案、リサーチ	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
2回	(新人デザイナーファッション大賞) 着装画、着色	デッサン10分 復習:作業確認
3回	《コンテストデザイン画》 デザイン考案、リサーチ	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
4回	(ドレメ全国ファッションデザインコンテスト) 着装画、着色	デッサン10分 復習:作業確認
5回	《コンテストデザイン画》 デザイン考案、リサーチ	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
6回	(毛皮デザインコンテスト) 着装画、着色	デッサン10分 復習:作業確認
7回	材質表現(レース)	デッサン10分 予習:素材リサーチ
8回	材質表現(光沢のある布)	デッサン10分 予習:素材リサーチ
9回	材質表現(皮革)	デッサン10分 予習:素材リサーチ
10回	模写① テーマ素材にあわせてコレクションから描く	デッサン10分 予習:作業資料用意
11回	模写② テーマ素材にあわせてコレクションから描く	デッサン10分 予習:作業資料用意
12回	テーマデザイン テーマ「建築」	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
13回	テーマデザイン テーマ「素材加工」	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
14回	メンズプロポーション	デッサン10分 復習:反復練習
15回	SMSDデザインショー デザイン画	デッサン10分 予習:デザインリサーチ
16回	デザイン発想 テーマ「シンボリックイラスト」テーマ立案	デッサン10分 予習:テーマリサーチ
17回	アイデア展開・コンセプト決定・デザイン案展開	デッサン10分 復習:残った作業を進める
18回	ラフスケッチ	デッサン10分 復習:残った作業を進める
19回	デザイン決定・レンダリング	デッサン10分 復習:残った作業を進める
20回	着色	デッサン10分 復習:作品の見直し
21回		各自の進行状況に合わせる
22回	特別授業(展示会&ショーのため)	復習:残った作業を進める
23回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回		復習:残った作業を進める
26回	《パネル作品》 パネル水貼り・デザイン考案	デッサン10分 予習:資料収集
27回	アイデア展開	デッサン10分 復習:残った作業を進める
28回	コンセプト決定・デザイン案展開	デッサン10分 復習:残った作業を進める
29回	デザイン決定・レンダリング	デッサン10分 復習:残った作業を進める
30回	パネルに下描き	デッサン10分 復習:残った作業を進める
31回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
32回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
33回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
34回	パネル着彩	デッサン10分 復習:残った作業を進める
35回	まとめ・合評	復習:作品の振り返り

☆フィードバックの方法
各作品添削の際に、コメントやアドバイスを記入して、次回以降の授業で返却する。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	70 %
試験結果	—
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献
服飾関連専門講座④ ファッションデザイン画
GAP、各種ファッション雑誌

☆オフィスアワー
月曜日13時10分～16時20分:200教室
鈴木英子担当

☆備考
日程及び授業内容は変更することもある。

パターンメイキング

担当鈴木英子

アパレル工学科2年

☆概要

パターンナーに必要なパターン作成に関する技術と知識のレベルアップの為パターンメイキング技術検定合格とカットソーのパターンの引き方を学ぶ必修授業である。

☆授業のねらい

パターンについての理解度・能力アップをする。さらに生産効率を上げる為のパターン修正工業用パターン作成などにも取り組む。カットソーのパターン作成を学ぶ。

☆目標

「パターンメイキング技術検定試験3級」の取得を目標とする。

☆授業計画

総授業時数 70

講義時数 40

実習時数 30

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《カットソー製図(Tシャツ)》製図方法について(寸法の見方、使用説明)	復習:残った作業を進める
2回	実寸製図(前後身頃)	復習:残った作業を進める
3回	実寸製図(袖)	復習:残った作業を進める
4回	記号、名称、縫製指示書き	復習:残った作業を進める
5回	工業用パターン	復習:残った作業を進める
6回	縫製仕様書作成	復習:授業の内容を整理しまとめる
7回	《カットソー製図(ノースリーブP/O)》製図方法について(寸法の見方、使用説明)	復習:残った作業を進める
8回	実寸製図(前後身頃)	復習:残った作業を進める
9回	実寸製図(前身頃持ち出し、見返し、袖リブ、衿)	復習:残った作業を進める
10回	記号、名称、縫製指示書き	復習:残った作業を進める
11回	工業用パターン	復習:残った作業を進める
12回	縫製仕様書作成	復習:授業の内容を整理しまとめる
13回	《カットソー製図(半袖ポロシャツ)》製図方法について(寸法の見方、使用説明)	復習:残った作業を進める
14回	実寸製図(前後身頃)	復習:残った作業を進める
15回	実寸製図(前身頃持ち出し、見返し、袖リブ、衿)	復習:残った作業を進める
16回	記号、名称、縫製指示書き	復習:残った作業を進める
17回	工業用パターン	復習:残った作業を進める
18回	縫製仕様書作成	復習:授業の内容を整理しまとめる
19回	特別授業(展示会&ショウのため) オリジナル作品制作	各自の進行状況に合わせる
20回		復習:残った作業を進める
21回		復習:残った作業を進める
22回		復習:残った作業を進める
23回		復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回	《PM3級試験対策》パターンメイキング理論対策 過去問	各自の進行状況に合わせる (予習・復習は教科書確認)
26回	《PM3級試験対策》パターンメイキング実技対策 デザインA パターンメイキング実技対策 デザインB	各自の進行状況に合わせる (予習・復習)(シーチング用意)
27回		
28回	《教育実習対策》指導模擬授業、まとめ	復習:指導手順確認
29回		
30回	《技能検定用シャツ》縫製 縫製仕様書	復習:残った作業を進める
31回	《ラブオフ法パターン(パンツ)》製品(パンツ)の地の目をとる	復習:残った作業を進める
32回	シーチングを当てて型を写し取る。写した線を修正	予習:シーチング地直し
33回	ドラフティング・パターンメイキング	復習:残った作業を進める
34回	《グレーディング(パンツ)》ラブオフしたパンツパターンを使用してサイズアップする	復習:残った作業を進める
35回	ラブオフしたパンツパターンを使用してサイズダウンする	復習:残った作業を進める

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点后返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	40 %
試験結果	25 %
検定試験	5 %
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック
パターンメイキング技術検定試験問題回答・解説集

☆オフィスアワー

金曜日14時50分～16時20分:200教室

火曜日鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

工業用パターンガイド 担当吉田陽子 アパレル工学科2年

☆概要

工業用生産を考えたパターン造りは大変重要です。よって工学科の必修科目であり、又重要な科目でもある。

☆授業のねらい

実際のアパレル業界に必要なパターンメイキングの技術を付ける為のパターン操作について学べるようにする。

☆目標

工業生産でアパレル商品の完成度を高められるように、又縫製工場や作り手によって異なる商品ができないパターン創りができるようにする。(縫い代付け、裏地削り、衿、見返しの展開など)

☆授業計画

総授業時数 70 講義時数 40 実習時数 30

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	商品作りにおけるパターンメーカーの役割と違い デザイナーパターンと工業用パターンの違い	本を読んで説明する 又実習する
2回	工業用パターン記号(地の目、ノッチ、イセ、釦等等)	予習:次の回の所を必ず読む(宿題)
3回	ノッチについて	予習:次の回の所を必ず読む(宿題)
4回	ノッチを入れる場合の約束ごと、ノッチの入れ方の訳	次の回でわからない所を質問する
5回	縫い代について	予習:次の回の所を必ず読む(宿題)
6回	縫い代の決め方つけ方、縫い代巾の寸法例、縫い代端角等	次の回でわからない所を質問する
7回	縫製順序を支持する縫い代のつけ方 仕上げから生じるつけ方	
8回	パーツの工業用パターン	予習:次の回の所を必ず読む(宿題)
9回	見返しと前立て	次の回でわからない所を質問する
10回	衿	
11回	ポケット	
12回	ベンツ	
13回	ジャケット、コートの袖口明き	
14回	カフスと袖口明き	
15回	身頃用短冊、	予習:次の回の所を必ず読む(宿題)
16回	ベルトとベルト通し	次の回でわからない所を質問する
17回	芯地、裏地、スタンピング用ゲージ	
18回		各自の進行状況に合わせる
19回		パターンは全て工業用パターンで
20回	特別授業(展示会&ショウのため)	作成する
21回	オリジナル作品製作	
22回		
23回	CADによるパターン展開	プリントを参照しながら
24回	ジャケット衿	各自操作する
25回	ジャケット見返し	
26回	ジャケットの裏地	
27回	芯地の指示	
28回	片玉縁ポケット作成	
29回	両玉縁ポケット作成	
30回	スラッシュポケット作成	
31回	箱ポケット作成	
32回	ノッチ	
33回	記号	
34回	名称 縫製指示記入	
35回	縫い代付け	

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点后に返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	35 %
試験結果	35 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

工業用パターンガイド

☆オフィスアワー

火曜日13時10分～14時40分: CAD室

吉田陽子担当(実務経験あり)授業時数70時間

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

立体裁断 I

担当鈴木英子

アパレル工学科2年

☆概要

1年次で得た基礎知識と技術をもとに、2年次ではフレアスカート、ワンピース、プリンセスラインジャケット、オリジナルブルゾン等のシルエットづくりや体への入り方とより高度なドレーピング技術を学ぶ。大変重要な必修科目である。

☆授業のねらい

イメージを具現化するために、様々なアイテムのドレーピングを実習し、応用力を身に付ける。

☆目標

デザイン性の高いシルエットの表現テクニックや、機能性を追求した服作りを目指す。

☆授業計画

総授業時数 490 講義時数 100 実習時数 390

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1週	《フレアスカート立体裁断》	フレアスカートドレーピング(前後スカートおこし)
2週		フレアスカートドレーピング(印付け、ラインチェック、傾斜)
3週		フレアスカートドレーピング(スソ、ベルト付け)
4週		フレアスカートドラフティング、パターンメイキング
5週		フレアスカート工業用パターン作成
6週		フレアスカート縫製仕様書作成
7週	《胸切替ワンピース立体裁断》	ワンピースドレーピング(前身頃、胸PKTおこし)
8週		ワンピースドレーピング(後身頃、衿)
9週		ワンピースドレーピング(袖、前スカート)
10週		ワンピースドレーピング(後スカート、スソ)
11週		ワンピースドラフティング、パターンメイキング
12週		ワンピース工業用パターン作成
13週		ワンピース縫製仕様書作成
14週	《テーラード・プリンセスラインジャケット立体裁断》	ジャケットドレーピング(前後身頃おこし)
15週		ジャケットドレーピング(ラベル、上衿)
16週		ジャケットドレーピング(2枚袖)
17週		ジャケットドレーピング(スソ、ポケット、釦)
18週		ジャケットドラフティング、パターンメイキング(表地)
19週		ジャケットパターンメイキング(裏地、PKT等)
20週		ジャケット工業用パターン
21週		ジャケット縫製仕様書
22週		各自の進行状況に合わせる
23週		パターンは全て工業用パターンで作成する
24週	特別授業(展示会&ショウのため)	
25週	オリジナル作品製作	
26週		
27週	《PM3級試験対策》	パターンメイキング実技対策 デザインA
28週		パターンメイキング実技対策 デザインB
29週		模擬試験(実技)
30週	《教育実習指導対策》	指導模擬授業・まとめ
31週		1年生タイトスカート指導
32週	《技能検定用シャツ》	縫製
33週	《革ブルゾン》	デザイン考案・ドレーピング(前後身頃おこし)
34週		ドレーピング(衿、袖)
35週		トウル作成

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	50 %
試験結果	20 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

スカートについてのプリント、ワンピースについてのプリント、プリンセスラインについてのプリント

☆オフィスアワー

月曜日 09時00分～12時10分:200教室
水曜日 13時10分～16時20分:200教室
木曜日 10時40分～12時10分・13時10分～16時20分:200教室
金曜日 13時10分～14時40分:200教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

ファッションビジネス

担当鈴木英子

アパレル工学科2年

☆概要

ファッション産業の意味や役割、構造、ファッションビジネスの機能やシステムなどを総合的に学ぶ、必修科目である。

☆授業のねらい

ビジネスとして成り立つ商品企画を行うための、市場調査・商品計画・計数管理等の基本や、それぞれの専門的な職能や職域を具体的に理解する。

☆目標

「ファッションビジネス能力検定3級」の取得を目標とする。

☆授業計画

総授業時数 70 講義時数 50 実習時数 20

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《ファッションビジネス》 60～90年代ファッションビジネスの変遷	予習:教科書を確認
2回	ファッションビジネスの定義・特性・構成メンバー	予習:教科書を確認
3回	《ファッション生活》 消費者行動/ファッション生活空間	予習:教科書を確認
4回	ファッション消費》 ファッションとライフスタイル/ライフスタイル変化	予習:教科書を確認
5回	《ファッション産業構造》 繊維ファッション産業の構造/アパレル企業の業態	予習:教科書を確認
6回	小売業の構造/アパレル小売業の業態	予習:教科書を確認
7回	《ファッションマーケティング》 マーケティング基礎知識/ターゲットとコンセプト	予習:教科書を確認
8回	市場調査の基礎知識	予習:教科書を確認
9回	*市場調査実施・調査書まとめ	復習:市場調査結果をまとめる
10回	《ファッションマーチャンダイジング》 マーチャンダイジングの基礎知識	予習:教科書を確認
11回	ファッション資料の知識/売場商品構成の基礎	予習:教科書を確認
12回	《ファッション流通》 流通/ファッション小売業の業務	予習:教科書を確認
13回	《ファッション販売》 コミュニケーションの基本/販売の基本マナー	予習:教科書を確認
14回	接客技術/顧客作り・ファン作り	予習:教科書を確認
15回	《キャリアプラン》 自己啓発/ファッションアドバイザー	予習:教科書を確認
16回	《ビジネス基礎知識》 社会常識Ⅰ/企業と組織Ⅰ	予習:教科書を確認
17回	ビジネス文書/計数知識	予習:教科書を確認
18回	《ファッション文化》 ファッションの定義/ファッションとデザインとアート	予習:教科書を確認
19回	デザイン文化》 ファッションの歴史(オートクチュール・プレタポルテ)	予習:教科書を確認
20回		各自の進行状況に合わせる
21回	特別授業(展示会&ショーのため)	復習:残った作業を進める
22回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
23回		復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回	《ファッション ライフスタイルとコーディネート/スタイリングⅠ	予習:教科書を確認
26回	コーディネート》 スタイリング2/ディスプレイ基礎知識	予習:教科書を確認
27回	《ファッション商品知識》 アパレルとアイテム・シルエット・ディテールの知識	予習:教科書を確認
28回	ファッション商品と品質/サイズ/素材知識(繊維・糸・ニット)	予習:教科書を確認
29回		予習:教科書を確認
30回	《ファッションデザイン》 デザイン画と製品図による表現/デザインと機能/色彩	予習:教科書を確認
31回	《パターンメイキング》 パターン基礎知識	予習:教科書を確認
32回	《ファッションエンジニアリング》 裁断・縫製の基礎知識	予習:教科書を確認
33回	《商品企画書》 ターゲット企画・情報企画	復習:残った作業を進める
34回	コンセプト企画・コーディネート企画	復習:残った作業を進める
35回	アイテム企画・デザインニング	復習:企画書の振り返り

☆フィードバックの方法

授業内で不明点があれば、その場で対応する。提出課題には添削・採点後返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	40 %
試験結果	25 %
検定試験	5 %
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

ファッションビジネス能力検定試験3級ガイドブック

☆オフィスアワー

金曜日10時40分～12時10分:200教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

ブライダル

担当佐藤道子 アパレル工学科2年

☆概要

最近の結婚のスタイルに即応できる人材育成のために必要な科目である。

☆授業のねらい

オリジナルウェディングの多様化に対応できる力を業界の現状を理解し身に付ける。

☆目標

ユーザーに対して的確なアドバイスのできるプランナーをめざす。またブライダルファッションプランナー検定試験合格を目指す。

☆授業計画

総授業時数 70 講義時数 70 実習時数 0

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《オリエンテーション》	業界の現状
2回		協会の認定する資格
3回		スペシャリストの役割
4回	《ウェディングの種類》	神前結婚式
5回		キリスト教結婚式
6回		人前結婚式
7回		シビルウェディング
8回	《日本のウェディングの歴史》	婚礼の歴史
9回		年代別の特徴
10回	《セレモニー・レセプションの現状とトレンド》	会場の多様化
11回		レセプションの変化
12回		セレモニーレセプションの専門用語
13回	《ファッションコーディネート》	各部名称と種類
14回		ドレス丈・トレーンの種類
15回		カラー・ネックライン・スリーブ・アクセサリの種類
16回		シルエット別コーディネーション
17回	《フォーマルファッション》	ウェディングの場合の礼装
18回	《カラーコーディネート》	ウェディングカラーコーディネーション
19回	《フラワーコーディネート》	ウェディングにおけるフラワー装飾について
20回		セレモニー会場・披露宴・パーティー会場の装花
21回		ウェディングブーケ・ブートニアブーケの形について
22回	《和装コーディネート》	打掛花嫁・新郎の紋付 名称
23回		振袖・留袖・中振袖について
24回	《フォトスタイリング》	美しい花嫁姿を残すために
25回		基本ポーズ・移動時のポイント
26回		シーン別アドバイス
27回	《カップルアテンダントの方法》	ブライダルアテンダントについて
28回	《結納・婚約の現状とトレンド》	伝統としきたりに従った結納
29回		形式にこだわらない婚約式
30回	《マナー》	マナーの基本
31回		訪問・手紙のマナー
32回		食事のマナー
33回	《接客知識》	接客の必要性
34回		接客要素
35回	《専門用語》	ホテル式用語・ジュエリー用語

☆フィードバックの方法

授業内で不明点、質問などあれば、その場で対応する。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	—
試験結果	50 %
検定試験	20 %
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

ブライダルの基礎知識

☆オフィスアワー

金曜日 09時00分～10時30分：CAD室

佐藤道子担当授業時数70時間

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

服飾造形Ⅲ

担当鈴木英子・吉田陽子

アパレル工学科3年

☆概要
造形最終学年として、企画・設計・生産といったアパレル生産プロセスを学び高度な知識と技術を得るためのとても重要な必修科目である。

☆授業のねらい
高級素材や特殊素材の扱い方、シルエット作りの技術、手芸的装飾テクニックの取り入れ方を製作実習とともに学びます。

☆目標
平面製図とドレーピングテクニック(立体裁断)を併用し、服飾とテクニックの幅を広げより応用力を高めた、造形能力の習得を目指す。

☆授業計画

総授業時数 280 講義時数 40 実習時数 240

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1週	《革ブルゾン》デザイン考案・パターンメイキング・パターン展開	予習:デザイン考案
2週	トワル作成	復習:トワル組み立て
3週	トワルフィッティング・修正	復習:残った作業を進める
4週	各アイテムパターン修正・作成	復習:残った作業を進める
5週	各パーツの工業用パターン作成、マーキング	復習:縫製仕様書作成
6週	革について基礎知識(種類、裁断・縫製方法、注意点など)	予習:生地、付属の準備
7週	生地裁断、芯貼り、アイロン	復習:残った作業を進める
8週	縫製(表地接ぎ、ポケット作り)	復習:残った作業を進める
9週	縫製(裏地接ぎ、衿)	復習:残った作業を進める
10週	縫製(袖作り、袖口、袖付け)	復習:残った作業を進める
11週	縫製(衿付け、前端始末(ファスナー・釦など)、裾始末)	復習:授業内容の整理・まとめ
12週	仕上げ	復習:セルフチェック
13週	《オリジナル作品》デザイン考案・素材選択・パターンメイキング・パターン展開	予習:デザイン考案
14週	トワル作成	復習:トワル組み立て
15週	トワルフィッティング・修正	復習:残った作業を進める
16週	各アイテムパターン修正・作成	復習:残った作業を進める
17週	各パーツの工業用パターン作成、マーキング	復習:縫製仕様書作成
18週	生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地、付属の準備
19週	縫製	復習:残った作業を進める
20週	縫製	復習:残った作業を進める
21週	装飾等	復習:授業内容の整理・まとめ
22週	仕上げ	復習:セルフチェック
23週	《卒業研究作品》卒研① 縫製	復習:残った作業を進める
24週		復習:残った作業を進める
25週	卒研② 縫製	復習:残った作業を進める
26週		復習:残った作業を進める
27週	卒研③ 縫製	復習:残った作業を進める
28週		復習:残った作業を進める
29週	卒研④ 縫製	復習:残った作業を進める
30週		復習:残った作業を進める
31週	卒研⑤ 縫製	復習:残った作業を進める
32週		復習:残った作業を進める
33週	《技能検定用ジャケット》生地裁断、芯貼り、アイロン	
34週	縫製	
35週	予備日	

☆フィードバックの方法
作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	40 %
試験結果	25 %
検定試験	5 %
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献
服飾造形講座 ②スカート・パンツ、③ブラウス・ワンピース、④ジャケット・コート、⑤コート・ケープ
工業用パターンガイド

☆オフィスアワー
月・火曜日09時00分～12時10分:200教室
月曜日吉田陽子担当(実務経験あり)授業時数140時間
火曜日鈴木英子担当

☆備考
日程及び授業内容は変更することもある。

デザイン画Ⅲ

担当鈴木英子 アパレル工学科3年

☆概要
各自のデザインテーマに合わせ、イメージ展開に必要な表現力・伝えるためのプレゼンテーション・アプローチといった表現力を知り、オリジナリティのあるファッションデザイン画を研究する。必修科目である。

☆授業のねらい
洗練された自由な創造力と発想力、その表現テクニックを向上させる。

☆目標
デザイナーとして必要な感性と創造力を身につける。テキスタイルが多種多様な昨今、重要な素材の表現力を画材の使い方、着色や線の描き方でさらに上達することを目指す。

☆授業計画

総授業時数 140 講義時数 40 実習時数 100

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《コンテストデザイン画》 デザイン考案、リサーチ	予習:デザインリサーチ
2回	(新人デザイナーファッション大賞) 着装画、着色	復習:作業確認
3回	《コンテストデザイン画》 デザイン考案、リサーチ	予習:デザインリサーチ
4回	(ドレメ全国ファッションデザインコンテスト) 着装画、着色	復習:作業確認
5回	《コンテストデザイン画》 デザイン考案、リサーチ	予習:デザインリサーチ
6回	(毛皮デザインコンテスト) 着装画、着色	復習:作業確認
7回	画材の表現方法(アクリルガッシュ)	復習:反復練習
8回	画材の表現方法(パステル)	復習:反復練習
9回	デフォルメ画①(見せたい部位を誇張した表現法)	復習:反復練習
10回	デフォルメ画②(見せたい部位を誇張した表現法)	復習:反復練習
11回	コラージュ(効果的にイメージを伝える方法)	予習:資料収集
12回	テーマデザイン テーマ「民族衣装」	予習:デザインリサーチ
13回	テーマデザイン テーマ「アバンギャルド」	予習:デザインリサーチ
14回	子供のプロポーション(90cm、110cm、140cm)	復習:反復練習
15回	SMSDデザインショー デザイン画	予習:デザインリサーチ
16回	デザイン発想 テーマ「群像画」 テーマ立案・アイディア展開	予習:テーマリサーチ
17回	コンセプト決定・デザイン案展開	復習:残った作業を進める
18回	ラフスケッチ	復習:残った作業を進める
19回	デザイン決定・レンダリング	復習:残った作業を進める
20回	着色	復習:作品の見直し
21回		各自の進行状況に合わせる
22回	特別授業(展示会&ショーのため)	復習:残った作業を進める
23回	オリジナル作品制作	復習:残った作業を進める
24回		復習:残った作業を進める
25回		復習:残った作業を進める
26回	《パネル作品》 パネル水貼り・デザイン考案	予習:資料収集
27回	アイディア展開	復習:残った作業を進める
28回	コンセプト決定・デザイン案展開	復習:残った作業を進める
29回	デザイン決定・レンダリング	復習:残った作業を進める
30回	パネルに下描き	復習:残った作業を進める
31回	パネル着彩	復習:残った作業を進める
32回	パネル着彩	復習:残った作業を進める
33回	パネル着彩	復習:残った作業を進める
34回	パネル着彩	復習:残った作業を進める
35回	まとめ・合評開	復習:作品の振り返り

☆フィードバックの方法
各作品添削の際に、コメントやアドバイスを記入して、次回以降の授業で返却する。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	70 %
試験結果	—
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献
服飾関連専門講座④ ファッションデザイン画
GAP、各種ファッション雑誌

☆オフィスアワー
月曜日13時10分～16時20分:20D教室
鈴木英子担当

☆備考
日程及び授業内容は変更することもある。

アパレルCAD

担当吉田陽子 アパレル工学科3年

☆概要

IT社会の昨今、アパレルCADシステムはパターンメイキングに必要不可欠なものになっている。アパレルCADシステム「TORAY CREA COMPO」を使いパターンメイキングの基本的な操作方法を学ぶための必修科目である。

☆授業のねらい

1年生・2年生とアナログで作成していたパターン。パターンのことを学んだ今こそアパレルCADで美しい、バランスの取れたパターンを引けるように楽しく学べるようにする。

☆目標

パターン作成を繰り返し行うことでアパレルCADの操作を習得し、アパレル企業の中でアパレルCADをツールとして使いこなせることを目指す。

☆授業計画

総授業時数 70 講義時数 10 実習時数 60

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	《アパレルCADについて》CreaCompo パターンマジック及び基本操作について説明	復習:授業内容の整理・まとめ
2回	《ポートネックT-シャツ》前後身頃作成、線のつながりチェック	予習:プリントを確認
3回	袖作成、寸法チェック	予習:プリントを確認
4回	衿作成、寸法チェック	予習:プリントを確認
5回	縫製仕様書き込み、パーツ化、パーツ情報設定	予習:プリントを確認
6回	縫い代付け	復習:授業内容の整理・まとめ
7回	《丸首T-シャツ》前後身頃作成、線のつながりチェック	予習:プリントを確認
8回	袖作成、寸法チェック	予習:プリントを確認
9回	衿作成、寸法チェック	予習:プリントを確認
10回	縫製仕様書き込み、パーツ化、パーツ情報設定	予習:プリントを確認
11回	縫い代付け	復習:授業内容の整理・まとめ
12回	予備日	復習:残った作業を進める
13回	《袖なしポロシャツ》前後身頃作成、線のつながり&寸法チェック	予習:プリントを確認
14回	前明き位置、衿作成	予習:プリントを確認
15回	袖ぐり&袖口リブ作成	予習:プリントを確認
16回	縫製仕様書き込み、パーツ化、パーツ情報設定	予習:プリントを確認
17回	縫い代付け	復習:授業内容の整理・まとめ
18回		各自の進行状況に合わせる
19回		パターンは全て工業用パターンで作成する
20回	特別授業(展示会&ショウのため)	
21回	オリジナル作品製作	
22回		
23回	《ラグラン袖タートルネックP/O》前後身頃作成、線のつながり&寸法チェック	予習:プリントを確認
24回	ラグラン袖作成	予習:プリントを確認
25回	ラグラン袖作成	予習:プリントを確認
26回	衿作成、寸法チェック	予習:プリントを確認
27回	縫製仕様書き込み、パーツ化、パーツ情報設定	予習:プリントを確認
28回	縫い代付け	復習:授業内容の整理・まとめ
29回	《デジタイザー入力》デジタイザーについて説明	復習:授業内容の整理・まとめ
30回	タイトスカート入力	予習:プリントを確認
31回	タイトスカートパターンメイキング	予習:プリントを確認
32回	タイトスカートパターンメイキング	予習:プリントを確認
33回	縫製仕様書き込み、パーツ化、パーツ情報設定	予習:プリントを確認
34回	縫い代付け	予習:プリントを確認
35回	予備日	復習:授業内容の整理・まとめ

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後に返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	50 %
試験結果	20 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

CAD用PMのプリント

☆オフィスアワー

火曜日14時50分～16時20分: CAD教室
吉田陽子担当(実務経験あり)授業時数70時間

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

生産管理概論

担当鈴木英子 アパレル工学科3年

☆概要

アパレル生産のプロセスの中の生産部門は企画された製品を、よりスムーズに高品質な生産の為に必要な部門である。よって工学科デザイン学科の必修科目であり、又重要な科目でもある。

☆授業のねらい

アパレル生産の役割と過程を学ぶ。又なかなか学ぶ事がない布帛製品と違うカットソーの知識を学ぶ。

☆目標

細かいことが多い生産管理を学んだ後、希望者にはインターシップで実務経験もできるようにする。
又カットソー入門では生地特性、企画から検品までの流れを学び最終的には発注まで、できるようにする。

☆授業計画

総授業時数 70 読書時数 35 実習時数 35

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1回	カットソーの特徴(衣服の素材、生地の特性、デザインと生地との関係、混率の表示)	本を読んで説明、又実習する
2回	生地の種類(カットソー生地との認識、織み機による分類)	本を読んで説明する
3回	カットソーの系(繊維の種類、系の構成・種類・撚り・太さと表示)	本を読んで説明する
4回	生地の知識(生地の内容)	本を読んで説明する
5回	染色(染色加工、浸染、捺染(プリント))・加工(生地での加工、製品の過去)	本を読んで説明する
6回	生地の企画(テキスタイルデザイナーシュミレーション)	本を読んで説明、又実習する
7回	素材提案、カラー出し、ボーダーの企画	予習:デザイン、色についてリサーチ
8回	ジャガードの企画、プリントの企画	予習:デザイン、色についてリサーチ
9回	生産工程でのポイント(生地から製品まで、製造工程)	本を読んで説明する
10回	カットソーの企画(デザイナーシュミレーション)	予習:デザイン、色についてリサーチ
11回	ターゲットの分析、情報収集、アイテムの決定	復習:残った作業を進める
12回	生地の選定方法、付属の手配、サンプルの依頼とチェック	本を読んで説明、又実習する
13回	カットソーの品質管理(記事の品質管理、品質ラベル、取扱注意、製品での品質管理)	本を読んで説明する
14回	企業実践シュミレーション	本を読んで説明、又実習する
15回	商品プランニング	復習:残った作業を進める
16回	トータルプランニング	復習:残った作業を進める
17回	プレゼンテーション	予習:プレゼンテーション準備
18回		各自の進行状況に合わせる
19回		パターンは全て工業用パターンで作成する
20回	特別授業(展示会&ショウのため)	
21回	オリジナル作品製作	
22回		
23回	生産管理の仕事などの説明	プリントを参照しながら説明する
24回	生地・副資材の発注方法	プリントを参照しながら説明又実習
25回	生地のマーキングの仕方、用尺の出し方	プリントを参照しながら説明又実習
26回	付属、ラベル等の数の出し方	プリントを参照しながら説明又実習
27回	付属、ラベル等の発注方法	プリントを参照しながら説明又実習
28回	コスト計算方法、上代決定方法、卸値の出し方	プリントを参照しながら説明又実習
29回	付属帳作成	各自副資材を集めて作業する
30回	ファスナー、釦、芯、スレキ等の服資材	
31回		
32回	加工指示書の書き方	プリントを参照しながら説明又実習
33回	縫製工場の決め方、納期について	プリントを参照しながら説明する
34回	検品の仕方	プリントを参照しながら説明する
35回	完全先上げ、先上げ、中上げ、納品前検品	プリントを参照しながら説明又実習

☆フィードバックの方法

作業段階ごとに個別に点検・指導を行う。提出課題には添削・採点後に返却し解説を行う。

☆成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	35 %
試験結果	35 %
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

☆教科書及び参考文献

カットソー入門 アパレル製作技術

☆オフィスアワー

金曜日10時40分～12時10分:200教室

鈴木英子担当

☆備考

日程及び授業内容は変更することもある。

卒業研究

担当佐藤道子・鈴木英子・吉田陽子

アパレル工学科3年

★概要

3年間学んだ集大成として、最終課題に相応しいテーマを個々に設定し5コーディネート以上の作品を製作する。さらに作品発表にむけてデザインにあうトータルコーディネイトを演出する。卒業に必要な必修科目である。

★授業のねらい

トワール製作及び実物製作を通して、美しいフォルムとオリジナリティを表現できる作品製作を目指す。

★目標

あらゆるアイテムのデザインのパターンを、各モデルのサイズにあわせて平面製図や立体裁断で作成し、実物を製作する。

★授業計画

総授業時数 560 講義時数 40 実習時数 520

回数	授業内容	具体的内容(予習・復習等)
1週	テーマ・デザイン考案、素材選択	予習:デザインについてリサーチ
2週	ポートフォリオ作成・プレゼンテーション	予習:ポートフォリオ資料集め
3週	《トワール》卒研① 仮縫い用パターン作成(立体裁断・パターン展開)・トワール作成	卒研①②③④⑤ 予習:シーチング地直し 復習:時間内に終わらないものは各自作業を進める
4週	フィッティング・トワール修正	
5週	《トワール》卒研② 仮縫い用パターン作成(立体裁断・パターン展開)・トワール作成	
6週	フィッティング・トワール修正	
7週	《トワール》卒研③ 仮縫い用パターン作成(立体裁断・パターン展開)・トワール作成	
8週	フィッティング・トワール修正	卒研①②③④⑤ 各自の進行状況に合わせ作業を進める
9週	《トワール》卒研④ 仮縫い用パターン作成(立体裁断・パターン展開)・トワール作成	
10週	フィッティング・トワール修正	
11週	《トワール》卒研⑤ 仮縫い用パターン作成(立体裁断・パターン展開)・トワール作成	
12週	フィッティング・トワール修正	
13週	《パターン作成》 卒研①②③④⑤各アイテムパターン修正・作成	卒研①②③④⑤ 各自の進行状況に合わせ作業を進める
14週	各パターン&パーツの工業用パターンへ	
15週	各アイテム縫製仕様書作成・付属出し	
16週	各アイテム付属確認	
17週	各アイテムマーキング	
18週	《作品制作》卒研① 生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地付属の準備 復習:縫製確認 各自の進行状況に合わせ作業を進める
19週	縫製	
20週	装飾等	
21週	《作品制作》卒研② 生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地付属の準備 復習:縫製確認 各自の進行状況に合わせ作業を進める
22週	縫製	
23週	装飾等	
24週	《作品制作》卒研③ 生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地付属の準備 復習:縫製確認 各自の進行状況に合わせ作業を進める
25週	縫製	
26週	装飾等	
27週	《作品制作》卒研④ 生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地付属の準備 復習:縫製確認 各自の進行状況に合わせ作業を進める
28週	縫製	
29週	装飾等	
30週	《作品制作》卒研⑤ 生地裁断、芯貼り、アイロン	予習:生地付属の準備 復習:縫製確認 各自の進行状況に合わせ作業を進める
31週	縫製	
32週	装飾等	
33週	《仕上げ》	セルフチェック
34週	モデルとフィッティング・トータルコーディネート	予習:作品の見直し
35週	作品提出・ポートフォリオ提出	予習:作品の見直し

★フィードバックの方法

各卒研、各アイテム作業段階ごとに個別に点検指導を行う。
パターン・縫製仕様書・ポートフォリオ・作品を点検・採点后に返却し解説を行う。

★成績評価の方法・基準

授業態度	30 %
課題	70 %
試験結果	—
検定試験	—
企業研修	—

出席日数が2/3に満たない場合及び提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業の取り組み、課題の完成度などによる総合評価とする。

★教科書及び参考文献

なし

★オフィスアワー

水・木・金曜日13時10分～16時20分

*後期のみ火曜日13時10分～14時40分・水曜日09時00分～12時10分・金曜日09時00分～10時30分 :20D教室

水・木曜日鈴木英子担当

金曜日・後期水・金曜日吉田陽子担当(実務経験あり) 授業時数245時間

後期火曜日佐藤道子担当

★備考

日程及び授業内容は変更することもある。